

2022年4月1日発行

ロシアによるウクライナに対する軍事侵攻から1か月。早期に停戦を

最近の状況

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が始まってから、1か月余が過ぎました。毎日のテレビに映るウクライナの惨状を目の当たりにしながら、これが21世紀に起きていることに情けなさを感じます。何としても早期に停戦を実現させて欲しいと祈るばかりです。

3月準定例会を開催しました

2022年3月17日（木）19時半から21時まで3月準定例会をzoom形式で開催しました。今回は、工藤克典氏から「投資（海外直接投資）とは何か？」と題して、資料に基づき、①輸出と投資の違い、②国際収支統計上の投資の扱い、③投資のリターン、④投資「参入」投資「退出」、⑤撤退事例、⑥投資案件の現地上場等についての説明を聴きました。世の中が「輸出から投資へ」という流れで進んでいる中で、上下水道界はどのような方法でこれを実現できるのだろうかというテーマについて考える機会となりました。

9名の参加者からは、「輸出から投資といわれる時代だが、日本の海外展開上下水道事業では、輸出でさえままならない。投資家の育成・出現を期待する。」、「合併企業による海外生産など、失敗事例も含めると、既に投資の事例はあるのではないか。何がその失敗の原因だったか、どこをどう直したら成功したのだろうかということがわかれば、今後の展開に参考になるのではないか。」等のコメントがありました。

水道公論4月号の内容

「海外水ビジネスの要点」シリーズでは「アジアのエネルギー安全保障と温暖化対応のための資金調達（工藤克典氏）」、コラム「海外ビジネスの眼」では「身近にある信託」を掲載。



満開の桜

定例会・幹事会の開催について

- ZOOM幹事会が4月15日（金）20時から。4月、5月（準）定例会の開催内容の確認や今後の予定についての相談等を予定。
- 4月21日（木）は定例会を対面形式で開催します。日本水道新聞社のご厚意により、12:30より市ヶ谷水道会館8階第4会議室で開催。鈴木康二・元立命館アジア太平洋大学教授による「新しい資本主義のアジア」における水道・下水道事業を考える」とのテーマによる発表とその発表に関する議論を行います。
- 鈴木氏からは、事前に「新しい資本主義のアジア」（web雑誌「世界経済評論IMPACT」2022年2月28日付で掲載）の紹介とコメント依頼を受けています。詳細は、事務局までお問い合わせください。

水道公論コラム原稿を募集しています

字数は1500から1600字、「である調」、ペンネーム（実名は出さず）で原稿を募集しています。連絡は山村まで。